

岩崎純一歌集		『新純星余情和歌集』>2002年の部				
歌集名読み		しんじゆんせいよせいわかしふ				
作者		岩崎純一				
通釈・語釈		園井長光、岩崎純一(自釈)				
作者サイト		http://iwasakijunichi.net/				
和歌ページトップ		http://iwasakijunichi.net/waka/				
詠進年月日	題	2002年の歌会・歌合(全て自歌会・自歌合)	通釈	語釈	他歌人欄	
主催: 岩崎純一	歌数:4首 歌人数:1名 自歌数:4首	『井ノ頭四首』(いのかしらよんしゆ)			評	派生歌など
2002		井の頭公園、久我山地区の四季を詠んだ歌である。 自撰				
2002/4/10	春	春霞さぞ佐保姫の井の頭まだ吹く風は寒けからまし	春霞が出たので、定めし、春をつかさどる女神がいるかもしれない井の頭である。まだ、吹いている風は冷たいだろうが。	◇掛詞「居×井」 ◇枕詞「春霞→ぬ」 ◇「井の頭」:徳川家光命名と伝承		
2002/7/28	夏	久我山にかをる夏風日のたびにあつさぞ歩くつらき小車	久我山に夏風が薫る。日ごとに日光は厳しくなり、行き交う牛車・馬車と言え、暑さで歩みがつらそうだ。	◇「久我山」:近世は「久ヶ山」 ◇本歌取「行きなやむ牛の歩みに立つ塵の風さえへあつき夏の小車」(定家)		
2002/10/6	秋	名に負へるだけのけしきのほどもなし富士見丘(ふじみがおか)の秋の夕暮れ	富士が見えるという名を負っているだけの目を見張る景色はない、富士見丘の秋の夕暮れよ。	◇慣用「名に負ふ」「秋の夕暮」	◆和歌的な誇張表現。実際に足を運んだところ、かろうじて富士山が見える場所が何箇所か残っている。(2007年時点の自注)	
2002/12/27	冬	雪とけず人見の道に逢ひもせずこぼれる冬の夜の高井戸	雪は解けず、人見の道という名にもかかわらず人に遭遇せず、凍っている冬の夜の高井戸の井戸。	◇「人見の道」:「人見街道」 ◇「高井戸」:「高井堂不動」の転訛		